

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円はレンジ内で方向性を探る動きか

〔10月6日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）		9月29日～10月3日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	149.62	149.63(29)	146.59(1)	147.63	-1.86
ユーロ・ドル	1.1700	1.1779(1)	1.1683(2)	1.1724	+0.0021
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	45,769.50	+414.51	日本10年債利回り	1.660	+0.006
ダウ平均株価	46,519.72	+272.43	米10年債利回り	4.083	-0.093
=====					
<来週の主要経済統計等>					
6日	日銀支店長会議、地域経済報告（さくらレポート）公表				
	スイス9月雇用統計				
	ユーロ圏8月小売売上高				
7日	日本8月勤労者世帯家計調査				
	日本8月景気動向指数速報値				
	独8月製造業受注指数				
	米8月貿易収支				
	カナダ8月貿易収支				
	カナダ9月Ivey購買部協会指数				
8日	日本8月経常収支				
	NZ準備銀行（RBNZ）政策金利				
	植田日銀総裁講演				
	独8月鉱工業生産指数				
	米連邦公開市場委員会（FOMC、9月16－17日開催分）議事要旨				
9日	独8月貿易収支				
	米新規失業保険申請件数				
10日	カナダ9月雇用統計				
	米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値				

【前回のレビュー】ドルが堅調な動きを見せているところで、9月25日の米第2四半期GDP確報値などの米経済指標の上振れでドル買いに傾いた。今後のドル円は米経済指標の動きに左右される動きが見込まれるが、底堅い推移になるとした。

【米政府機関の一部閉鎖で経済指標の公表は延期に】

米政府機関閉鎖への警戒感、その後の一部政府機関閉鎖でドル売り円買いの動きに傾いた。ドル円は週明けの9月29日以降は陰線が連続して、10月1日まで下落基調で推移した。売りが一巡すると、やや下げ渋りを見せている。

9月29日に日銀の野口審議委員が「2%の物価安定の目標達成は着実に近づいている。それは、政策金利調整の必要性がこれまで以上に高まりつつあることを意味している」などと述べた。これを受けて日銀の利上げ観測が高まり円高に振れた。ドル円は149円台半ばから148円台半ばまでドル安円高に振れた。

30日は日本の財務省が実施した2年利付国債入札の応募倍率が2.81倍に留まり、2009年以来の低い水準となった。過去12カ月の平均は3.79倍。最低落札利回りが市場予想を下回るなど、需要が鈍っている。この結果が示され、日本国債利回りが上昇（国債価格が下落）した後、円買いが広がった。

1日の米9月米ADP雇用者数は前月比3.2万人減となり、市場予想（5.0万人増）に反してマイナスに転じた。前回値もマイナスに下方修正されており、米雇用情勢への警戒感からドル売りに傾いた。これを受けて、ドル円は一時146円台半ばまでドル売り円買いが進んだ。

1日午前0時（日本時間1日午後1時）から、一部政府機関は閉鎖された。米政府機関の一部閉鎖の影響で米経済指標の公表が延期となっている。1日の米8月建設支出、2日発表予定の新規失業保険申請件数、米8月製造業受注は延期となっている。3日の米9月雇用統計の発表も延期の可能性が高い。

3日にドル円は日経平均の大幅高などを受けての円売りに147円台後半まで上値を伸ばした。植田日銀総裁は、「経済・物価見通しが実現していけば引き続き政策金利を引き上げていく」としつつも「まずは緩和的な金融環境を維持することが大切だ」などと述べた。タカ派的な発言をするとの市場の期待はあったものの、慎重姿勢に終始したことで円が売られやすい地合いとなった。

【米国で与野党が歩み寄りを見せるかに注目】

米国では与野党の対立でつなぎ予算が成立しなかったことで、一部政府機関が閉鎖された。このため、米経済指標の発表が遅れる結果となっている。今後与野党がどのように協議して歩み寄りを見せるのが注目される。

また、米連邦準備制度理事会（FRB）関係者などの発言も注目される。地区連銀総裁やFRB理事の講演予定なども予定されている。また、0.25%の利下げを決めた9月16-17日の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨が8日に公表される。この時は年内あと2回の利下げが想定されていたものの、来年の利下げ回数見通しが1回にとどまるなど、不透明感も根強い。今後の動きに関して、新たなヒントが出てくるかが注目される。

米政府機関の一部閉鎖はドル売りにつながりやすいとみられる。また、日銀による利上げ観測の高まりが円買い要因となる。ただ、8月以降は145円台半ばから146円台前半まで下げてくると、下げ渋りを見せやすくなっている。一方で、150円接近は上値を抑えられやすくなっている。こうした中、米国の政府機関再開への動きや日銀の利上げへの思惑などが交錯する中、レンジ内で方向性を探る動きになるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、146.00～150.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、7日に日本8月勤労者世帯家計調査、日本8月景気動向指数速報値、米8月貿易収支、8日に日本8月経常収支、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨、9日に米新規失業保険申請件数、10日に米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。なお、米貿易収支や新規失業保険申請件数は、米政府機関が一部閉鎖のままだと公表が延期される可能性が高い。

【ユーロドルはレンジ相場になる見通し】

10月6日の週にユーロ圏やドイツで注目される経済指標は、6日のユーロ圏8月小売売上高、7日に独8月製造業受注指数、8日の独8月鉱工業生産指数、9日の独8月貿易収支などがある。

10月1日に発表されたユーロ圏9月消費者物価指数速報値は前年比+2.2%となり市場予想と一致したものの、前回（+2.0%）から伸びが加速した。コア前年比+2.3%で、こちらも市場予想と一致した。欧州中央銀行（ECB）が今後の金融政策を見直すような変化とはなっていない。

ユーロドルは9月25日に1.1640台まで下落した後、上昇に転じている。ただ、1.18ドルの手前では上値を抑えられている。明確に方向性を示すような材料も乏しく、ユーロドルはレンジ相場で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1600～1.1850ドル。

ポンドドルは9月25日に1.3320台まで下落した後には上昇に転じているが、1.35台では上値を抑えられやすくなっている。ポンドドルもユーロドルと同様にレ

ンジ相場で推移するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1. 3200～
1. 3600ドル。

上記以外の今後の日米以外の経済指標は、6日にスイス9月雇用統計、7日にカナダ
8月貿易収支、カナダ9月I V E Y購買部協会指数、8日にNZ準備銀行（RBNZ）
政策金利、10日にカナダ9月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。